

「万引防止サミット」へ始動

関係各方面が参加して 準備委員会を開催

先月開催された全国万引犯罪防止機構（東京都新宿区、竹花豊理事長、以下万防機構）の通常総会で報告された「万引防止サミット in Tokyo」（仮称）の開催にあたり、7月5日に初の準備委員会が開催された。今回、警察や関連団体の代表者などが参加。会議では「万引防止サミット」開催の背景が報告される。現状の万引き被害に関する深刻

な状況やサミットへの要望など、積極的な発言が相次いだ。「万引防止サミット」は、来年3月に2日間の開催を予定。今後は年内に2回開催予定の準備委員会などの場で、サミット開催に関する組織の在り方や具体的な内容などを固めていく予定。

「万引防止サミット」準備委員会の委員長には、万防機構の竹花理事長を選任。竹花委員長は

国際サミット」の視察で感銘を受けた点を挙げ、米国の小売業者などのも「様々な取り組みが、私ども日本において万引き問題に関わっている者たち」に大きな示唆を与えるもので、今後の私どもの取り組み方法を考える上で、非常に重要な機会になった。それと同じことが日本でもできないか。私どもが感じた感動を皆で共有できないか」と語った。

そして、「日本には全国で万引き防止協議会が31組織あり、それぞれ官民が加わって、活動を進めている。こういう方達が一堂に会した会議はやつたことがない。この機会



万防機構・竹花理事長

準備委員会開催の理由として、昨年米国で開催された「常習万引・集団窃盗未然防止

準備委員会開催の理由として、昨年米国で開催された「常習万引・集団窃盗未然防止

準備委員会開催の理由として、昨年米国で開催された「常習万引・集団窃盗未然防止

準備委員会開催の理由として、昨年米国で開催された「常習万引・集団窃盗未然防止



関係各方面の代表が参加

という考えを示した。そして、「こういう会議を通して、万引き対策は何を目的とするものか。この目的を皆で明確化して、共有する」と述べ、万引き対策の本来的目的である万引犯罪の減少に向けて、現状を把握することで、犯罪手法や動機などに対応して、従来型の画一的だった取り組みとは異なる、万引犯罪の現状を踏まえた効果的な取り組みを推し進める必要性にも言及した。

準備委員会では、サミットの企画案が報告され

た。目的として、全国の万引き防止協議会と小売業が集結する場とする。同時に、盗難情報データベース構築などを含めた形で、5カ年の万引防止への低減プログラムなどを協議。開催日程（予定）は、来年の「セキュリティ

イシュー」開催時期と重なる3月9・10日の2日間。内容として、日本の万引き対策の紹介に加え、米国の担当者などを招聘して、流通、ドラッグストア、ネット対策、ORCA（地域の万引防止ネットワーク）などの

テーマに基づく講演実施が示された。日本における万引犯罪は、かつての青少年による犯罪というイメージから、外国人による大量万引きによる小売業の深刻な被害、ネットを介した転売、高齢者の犯罪増加という形へ変化している。小売業の参加者からは、集団窃盗による被害の深刻さ、犯罪手口なども報告された。

今後、年内に準備委員会を2回開催予定。「万引防止サミット」の開催主

体、規模や予算的措置といった課題を検討しながら、来春の開催へ向けた動きを加速していく方針。

準備委員会出席者（順不同）＝経済産業省、警察庁、東京都万引き防止官民合同会議、東京都商店街振興組合連動会、日本小売業協会、日本チェーンドラッグストア協会、全国警備業協会、日本経済新聞社、万防機構など